

プログラミング技術2部門

11月に県小学生大会

県内の小学生がプログラミング技術を競う「県小学生プログラミング大会」が11月26日、富山市五福の富山大黒田講堂で開かれる。プログラミング学習を通して未来社会を考える「とやま未来キッズカンファレンス2022」のメインイベントとして実施する。北日本新聞社で26日、実行委員



本年度の大会について話し合う参加者

QRコードから県小学生プログラミング大会のホームページにアクセスできます。要項などを確認してください。



会があった。

自作のロボットやゲームを募る作品部門と、プログラミングで実現したいイメージを絵と文で表すアイデア部門を設け、10月1日から応募を受け付ける。11月26日に作品のプレゼンテーションを行う。作品部門の最優秀賞受賞者は、来年3月の全国大会に出場する。

本年度は、国際的なロボットコンテスト「WRO JAPAN」県予選大会を7月17日（小中学生対象）と30日（高校生対象）に、いずれも富山市鶴坂公民館で実施する。実行委員長の山西潤一富山大名誉教授が「全県的な活動を進めていきたい」とあいさつ。本年度の大会について話し合った。

大会は、県、とやま地域ICTクラブ推進協議会、県情報産業協会、北日本新聞社でつくる実行委が主催する。大会ホームページから申し込む。問い合わせは北日本新聞社事務局、電話076（445）3333。

小学生プログラミング大会

11月26日に県予選

独自のプログラムで作ったロボットやアプリなどの作品を競う「2022年度全国選抜小学生プログラミング大会」が開催される。地方大会を12月末までに開き、勝ち抜いた代表が23年3月5日の全国大会に出場する。共同通信社と北日本新聞社など加盟新聞社でつくる全国新聞社事業協議会が主催する。富山県予選の

「県小学生プログラミング大会」は11月26日、富山市五福の富山大黒田講堂で開かれる。テーマは「みんなの未来」とし、自分や大切な人、地域の未来に役立つものであれば内容は自由だ。プログラミング言語も問わない。技術だけでなく、発想力や表現力などを総合的に評価する。

応募資格は小学1～6年生。個人、団体どちらでも参加できる。団体は1チーム4人までとなる。応募方法は大会ホームページ（<https://zsjk.jp>）で確認できる。21年度は9名7組の応募があった。過去2回の全国大会は新型コロナウイルスの影響でオンライン開催だったが、今回は東京都内の会場に代表を集めて実施する。制作のきっかけや特徴、苦労した点などを3分間で発表する。

プログラミング 小中学生技争う

WRO県予選

自律型ロボットの国際的なコンテスト「WRO（ワールド・ロボット・オリンピック）Jap an」の県予選会が17日、富山市鶴坂公民館であり、県内の小中学生31人がプログラミングの技術を競った。

県情報産業協会が開催。参加者は規定のロボットを設計・プログラミングし、コース内のブロックを移動



コースを動くロボットを見守る子どもたち
富山市鶴坂公民館

させたり、障害物を避けたりする動作の正確性やスピードを争った。

成績上位者の一部は、8月28日に浜松市で開かれる決勝大会に出場する。

◇成績▽小学生①前田崇見（福岡6）②堺和人（鶴坂6）③東さくら（同5）▽中学生①大畔峻太郎（国吉1）②上田悠生（小杉1）③森奏音（高岡西部1）◇決勝大会出場者▽小学生▽前田崇見、村端悠（福岡5）地崎陽翔（同6）堺和人、東さくら、小倉紗月（鶴坂4）



ロボ操作 頑張るぞ

全国大会 魚津工高生 健闘誓う

魚津 市販キットを組み立て、プログラミングした自律型ロボットの性能を競う「WRO（ワールド・ロボット・オリンピック）Jap an決勝大会」に出場する魚津工業高校生の激励会が19日、魚津市役所であり、村椿晃市長が激励金を贈った。

大会は28日に浜松市で開かれる。同校から吉田有希さん（機械科3年）、米澤康大さん（同1年）、高瀬勇樹さん（同1年）の「魚ロボ」チーム、松村浩太さん（同1年）が他校の生徒と組んだ「サンダーバード」

村椿市長（中央）の激励を受け、健闘を誓う生徒たち

6号」チームが出場する。4人は市長から励ましを受け、それぞれ「全国で練習の成果を発揮したい」などと決意を語った。

県内の小学生がプログラミング技術を競う「県小学生プログラミング大会2022」が11月26日、富山市五福の富山大黒田講堂で開かれます。作品部門、アイデア部門で応募を受け付けています。

プログラミングを活用して豊かな未来社会を考える「とやま未来キッズカンファレンス2022」の一環。「みんなの未来」をテーマに、自作のロボットやゲームなどを募る作品部門と、プログラミングで表現したいイメージを絵と文で表すアイデア部門があります。

来月の県小学生プログラミング大会 **作品を募集**

作品部門は今月20日までにエントリーが必要で、作品の締め切りは両部門とも11月7日(必着)。作品部門の優秀者は同26日にプレゼンテーションを行います。

募集要項の詳細はQRコードからアクセスしてください。とやま未来キッズカンファレンス実行委員会主催。問い合わせは実行委事務局(北日本新聞社事業局内)、電話076(445)3355(平日午前9時～午後5時)。



12作品県大会へ

県小学生プログラミング



県内の小学生がプログラミング技術を競う「県小学生プログラミング大会2022」の予選

会が10日、富山大五福キャンパスであり、県大会に出場する12作品が決まった。県大会は26日に同大黒田講堂で開かれる。

「みんなの未来」をテーマに、自作のロボットやゲームを募った作品部門は33作品の応募があった。予選通過者は県大会で作品に

ついて発表し、最優秀賞の受賞者は来年3月5日に東京国際フォーラムで開催される全国選抜小学生プログラミング大会に出場する。

絵や文章を対象にしたアイデア部門もあり、10日に応募81作品から23作品の入選が決まった。入選作品は26日に県大会の会場で展示され優秀作品が選ばれる。県、とやま地域ICTクラブ推進協議会、県情報産業協会、北日本新聞社で構成する実行委が主催。

▽県大会出場(作品部門) 本多寛仁(滑川市西部6) 奥山凜空(呉羽4) 竹之下倅志(芝園6) 岡本彩希(滑川市西部4) 岡根実例(富山大付属5) 前田崇見(福岡6) 地崎陽翔(同) 館航(富山大付属4) 堀和人(鶴坂6) 杉林優月(同) 澤田利周(富山大付属5) 関島裕石(同) 金森貴義(西条4)

最高賞に本多君 (滑川市西部小6年)

県小学生プログラミング大会



ステージで発表する本多君

「みんなの未来」課題に

プログラミングをテーマにしたイベント「とやま未来キッズカンファレンス」が26日、富山市五福の富山大黒田講堂で開かれた。メインイベントの県小学生プログラミング大会では、自作のロボットやゲームなどを募る作品部門の最終選考があり、最高賞の「ゴールド賞」と県知事賞に本多寛仁君（滑川市西部小学校6年）が選ばれた。

児童が「みんなの未来」をテーマにプログラミングを施した作品をステージで順に発表した。最高賞を受賞した本多君は、スピードを知らせたり、走行経路を確認したりすることができ「多機能ドライブレコーダー」を制作した。プログラミングで実現したい社会のアイデアを募集する「アイデア部門」の表彰もあった。山西潤一実行委員長（富山大名誉教授）は「レベルが高く、大変審査に悩んだ。素晴らしい作品を見せてもらい、実行委員長としてうれしく思う」と講評した。



けさの人

県小学生プログラミング大会作品部門で最高賞を獲得した滑川市西部小6年

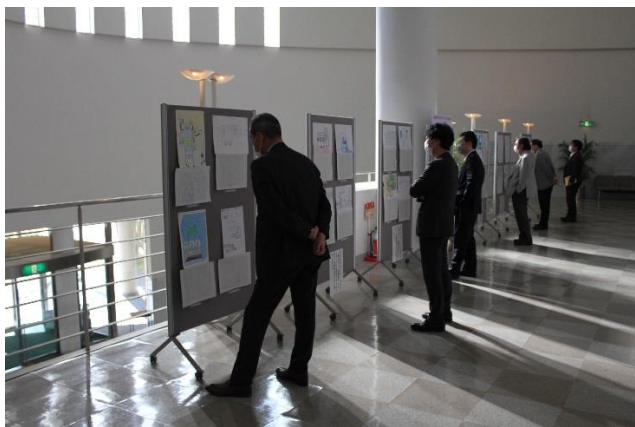
悔いなく創意工夫
車の運転中に速度を知らせるほか、停車後に別の地図アプリ上で走行経路を確認できるドライブレコーダーを自作し、県小学生プログラミング大会の作品部門で最高賞のゴールド賞と県知事賞に輝いた。大会出場3回目での栄冠に「すごいうれしい。名前を呼ばれた時はどきどきしたと笑顔を見せる。受賞作多機能ドライブレコーダーは、小型パソコンにカメラと衛星利用測位システム（GPS）レシーバーを接続し、連動するようプログラムを組んだ。古いデータがたまるのを自動的に消す仕組みづくりなどを工夫し、失敗を繰り返しながらも約4カ月かけて完成。過去の大会ではどちらも未来賞を受賞しており「最後の大会出場だったので、悔いなくようにしたかった」と語る。

プログラミングを始めたのは4年生から。山西潤一富山大名誉教授が滑川市で開く教室に通っている。初めて完成させたのは、海の問題をテーマに、シンベエザメを操作して海のごみを拾うゲーム「システムエンジニアの父」行書さん45のアドバイスも受けながら、日々腕を磨いている。

来年3月に東京国際フォーラムで開かれる全国大会に県代表として出場する。「上位に食い込んで結果を残したい」とプレゼンテーションの内容を練る。

パソコンが趣味で、メンデルスゾーン「歌の翼」を練習中。得意科目は算数と社会と理科で、将来はもちろんでプログラムに関係した職業に就きたい。滑川市で家族3人と暮らす。

12歳
(社会部・川崎那月)



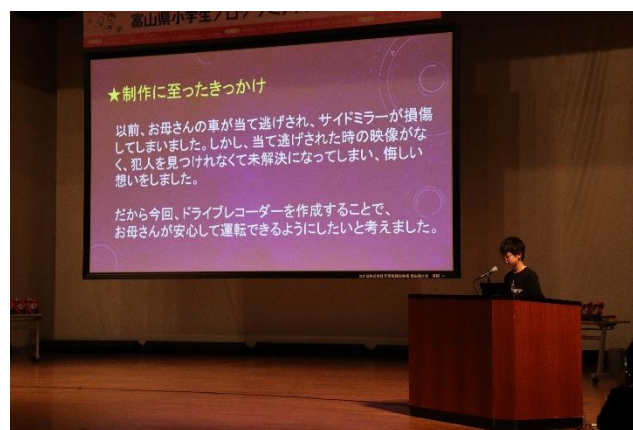
アイデア部門審査



開会式



県大会出場者紹介



発表の様子



発表の様子



ドローン操縦体験



おみくじロボット



ロボット体験



ゴミ箱ロボット



AI体験「ポーズを決めて高得点を狙おう」



アイデア部門受賞者



作品部門・夢デザイン優秀賞表彰



作品部門・夢デザイン未来賞表彰



作品部門・夢デザインブロンズ賞表彰



作品部門・富山県知事賞表彰



記念撮影（受賞者・審査員）